

研究構想シート	学校名	浜田市立弥栄中学校
	氏名	小田 薫
A 研究主題 主体的に学び、自ら力を伸ばし、互いに高め合う生徒の育成 ～「わかる」「つながる」授業づくりを通して～		
B 研究の目的 主体的に学び、力を伸ばし、互いに高め合う生徒を育成するために、「わかる」「つながる」授業実践の方法を明らかにする。		
C 子どもの実態 ○授業に落ち着いて取り組み、教師や友達の話をよく聞きながら学ぶことができる。 ○宿題など、やるべきことにきちんと取り組むことができる。 △県学力調査の生徒質問紙で、「自分で計画を立てて学習に取り組む」や「自分で時間を決めて遊ぶ」など、「自分で決めて自分で取り組む」ことに関する項目の肯定率が低い。 △家庭学習の時間が短い。 △学年によって学力の差が大きい。	E 手立て・内容（研究仮説） ① 基礎的・基本的な内容を定着させたいうえで、学習内容をもとに対話をする事により、より「わかる」授業になるであろう。 ② 学習内容と日常生活のつながりを意識した授業や、授業と家庭学習がつながるような取組をすることにより、生徒がより意欲的に学習するようになるであろう。 ③ ①②のような実践を行うことにより、生徒が主体的に学ぶことにより力を伸ばし、互いに高めあうようになるであろう。	D めざす子どもの姿 (1)「わかる」 ・基礎的・基本的な内容が理解できる。 ・生徒同士の対話で、より理解を深めることができる。 (2)「つながる」 ・学習した内容と日常生活をつなげて考えることができる。 ・対話により、お互いの考えや意見をつなげることができる。 ・授業内容をもとに、自分で家庭学習の内容を考え、取り組むことができる。 ・学習内容と学習内容を関連付けて考えることができる。 ・教科と教科の学習内容がつなげて考えることができる。
	F 検証方法 ・授業公開後の授業者自身の振り返り、参観者との協議 ・学校評価の生徒アンケート ・全国（県）学力調査の意識調査	
	G 研究計画 (1) 研修職員会議で、今年度の校内研究について周知（4月） (2) 相互の授業参観開始（4月～） (3) 公開授業（1人1回）、市教委訪問指導（2回） (4) 校内研究実施経過報告（8月） (5) 学校評価による生徒アンケートの実施（12月） (6) 県学力調査の生徒質問紙、学校評価の分析（2月）	